

2023年度 事業報告書

2023年4月1日～2024年3月31日

特定非営利活動法人近畿バイオインダストリー振興会議

2023年度事業報告書

事業内容

I. 会務関連

1. 会員総会・理事会 2023年6月20日(火)

決議事項:第1号議案 2022年度事業報告・2022年度活動計算書
第2号議案 2023年度事業計画・2023年度活動予算書
第3号議案 役員選任について

2. 記念講演会 2023年6月20日(火)

オンサイト開催(講演者はオンライン) 参加者:70名(発表者・事務局含む、以下同様)
「生命を捉えなおす ―動的平衡の視点から―」
青山学院大学 総合文化政策学部 教授 福岡 伸一
講演会終了後、懇親会(神泡セミナー) 参加者:68名

3. 理事会 2024年1月25日(木)

決議事項:第1号議案 経理規定改訂の件
意見交換

- 1) バイオの次世代を考える会の進捗
- 2) Bioeconomy Hub Japan(BH Japan)2025について
- 3) NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議40周年記念事業 意見交換

4. 新規会員勧誘活動

本年度、正会員6社、個人会員2名、準会員1名の退会があったが、新規入会勧誘活動を積極的に行った結果、新たに正会員16社の入会があり、増口も合わせて全体で33口の増加となった。事業拡大のため、今後も継続的に勧誘活動を行う。

- ◆退会:正会員 6社(6口)、個人会員 2名、準会員 1名
- ◆入会:正会員16社(24口)、増口6社(7口、準会員→正会員2社)

5. 活動報告会

近畿バイオの会員を対象に、活動報告会を開催した。今年度は、オンラインで3回の開催となった。新規入会会員の事業紹介および近畿バイオからの報告を行い、終了後にはオンライン交流会も実施した。会員相互の理解を深める良い機会となり、いくつかの商談に発展した。

- ◆2023年 7月12日(水) 参加者:46名
新規入会会員事業紹介 関西医薬品協会
阪急阪神ホールディングス株式会社
西日本電信電話株式会社
DCIパートナーズ株式会社
テイカ株式会社
H.U.セルズ株式会社
ケンブリッジコンサルタンツ株式会社

- ◆2023年 9月19日(水) 参加者:39名
新規入会会員事業紹介 Docquity Holdings Pte.Ltd.
オンキヨー株式会社
パソナ農援隊株式会社
川崎重工業株式会社
近畿バイオからのお知らせ

- ◆2024年 2月21日(水) 参加者:44名
近畿バイオからのお知らせ
会員企業の新規ビジネスの紹介 八洲薬品株式会社・BizScience株式会社
新規入会会員事業紹介 株式会社シーテック
株式会社旗ヶ岡ネイチャー研究所
大阪公立大学
福岡県大阪事務所

II. 業務関連

1. バイオ関連技術産業化支援事業

(1) バイオコミュニティ関西(BiocK)

BiocKは、内閣府認定のグローバルバイオコミュニティとして、関西を拠点としたバイオ分野におけるエコシステムの形成を目指し、1)イノベーションの促進、2)ネットワーク形成促進、3)国内外への情報発信に取り組んでいる。事務局は、近畿バイオと公益財団法人都市活力研究所が担当。

今年度は、以下の取組みを行った。

◆第5回委員会

2023年7月5日(水)

委員15名、代理21名、随行者15名、欠席委員6名

分科会オブザーバー16名、来賓並びにオブザーバー18名、事務局6名

1. 開会挨拶:澤田委員長
2. 審議(役員の選任)
新任:事務局次長 藤本秀司 公益財団法人都市活力研究所 専務理事
3. 「バイオ戦略に係る直近の動向」
内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局 企画官(バイオ) 佐藤大輔様
4. 「バイオエコノミー成功に向けたグローバル化」
政府代表 特命全権大使(関西担当) 姫野勉様
5. 「我が国バイオ政策の展開」
経済産業省 生物化学産業課長 下田裕和様
6. 「日本のバイオエコノミー発展のために必要なこと」
国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
技術戦略研究センター バイオエコノミーユニット ユニット長 水無渉様
7. 新委員紹介:滋賀県
8. 新分科会紹介:分析・計測分科会、バイオ産業人材育成分科会、健康関数[®]分科会
9. 2022年度活動報告及び決算
10. 2023年度活動計画及び予算
11. 意見公開(国際イベント企画案について)
12. 閉会挨拶:諸富副委員長

◆第6回委員会

2024年2月6日(火)

委員10名、代理21名、随行者12名、欠席委員11名

来賓3名、アドバイザー4名、分科会22名、認定BC2名、オブザーバー:5名、事務局5名

1. 開会挨拶(澤田委員長)

2. 「バイオ戦略について」

内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局 審議官 川上大輔様

3. 分科会活動報告(事務局)

新分科会紹介:宇宙バイオ実験分科会、音でバイオの世界をかえる分科会、
メドテックイノベーション分科会

分科会活動報告

4. Bioeconomy Hub Japan 2024、Bioeconomy Hub Japan 2025 ご紹介(事務局)

5. 意見交換(坂田副委員長兼統括コーディネーター)

6. 閉会挨拶(諸富副委員長)

◆2023年3月末現在 役員5名、委員37名、アドバイザー26名

1)イノベーションの促進

◆2022年度新規分科会(7件)、合計29件(2024年3月末現在)

分析・計測分科会

健康関数[®]分科会

宇宙バイオ実験分科会

音でバイオの世界をかえる分科会

メドテックイノベーション分科会

KODOBOKU技術を活用した森林環境分科会

トイレ空間での新たな価値提案分科会

*ビッグデータヘルスケア分科会をパーソナルデータ分科会に統合

◆第3回分科会会議

2023年8月31日(木)

分科会44名、オブザーバー8名、BiocK11名

1. 開会挨拶(澤田委員長)

2. 新分科会活動紹介

3. データ利活用

(1)データ利活用に関する課題

(2)トークセッション

4. スタートアップ支援活動

5. オープンイノベーション成功に向けたトークセッション

6. 閉会挨拶(諸富副委員長)

◆アドバイザー情報の発信

BiocKホームページで、BiocKアドバイザー26名の得意分野等について情報発信を開始した(2024年3月)。

◆デジタルバイオヘルス分科会のサポート

国立循環器病研究センターがJST共創の場から資金調達しているデジタルバイオヘルス分科会のサポートとして、スタートアップ創出/成長促進支援のための外部専門機関として近畿バイオが参画することになり、事業に応募のあったスタートアップの審査等に参加した。また、スタートアップ創出/成長の促進支援調査を実施した。

2023年5月28日～6月4日 オーストラリア ニュージーランド

2023年10月29日～11月9日 イングランド 英国 オランダ

2024年1月13日～1月21日 スペイン フランス

これらの調査を踏まえ、国循/ライフサイエンスインキュベーション協議会[Willsame株式会社]/BiocKとの連携海外機関の窓口を加え、支援を進める体制を構築した。

◆フォトニクス生命工学分科会のサポート

大阪大学フォトニクス生命工学研究開発拠点が、JST共創の場から資金調達しているフォトニクス生命工学分科会のサポートとして、ユニークな人材育成プログラムで教育を実施しているJohns Hopkins University (JHU)のCenter for Bioengineering Innovation and Design (CBID)で行われている教育プログラムを活用した、人材育成プログラム構成の強化と実施に参画することになり、1. 日本向け人材育成プログラム作成のための準備
2. プログラム構築のための体制づくり 3. 次年度以降のプログラム実施における講師採用や受講生獲得の仕組みの検討、BiocKや他の参加機関との連携体制づくりを開始した。今年度は、認定バイオコミュニティを中心として、連携するアカデミアを中心に人材育成プログラムなどに関するヒアリング、意見交換を実施した。

2) ネットワーク形成促進

◆連携機関登録

2023年度新規登録 13件

連携機関登録 計101件(2024年3月末現在)

◆第2回バイオコミュニティ連携会議

2023年11月27日(月)～28日(火) 福岡

◆京阪神連携会議(大阪府、京都市、神戸市、BiocK)

2023年4月27日(木) 大阪開催 国際イベント打合せ、その他情報交換

2023年6月15日(木) 神戸開催 国際イベント打合せ、その他情報交換

2023年7月26日(水) 京都開催 国際イベント打合せ、その他情報交換

2023年9月13日(水) 大阪開催 スタートアップ支援活動について、その他情報交換

2023年12月6日(水) 神戸開催 スタートアップ支援活動について、その他情報交換

2023年2月21日(水) 京都開催 アントレプレナー教育について、その他情報交換

◆バイオ戦略トークセミナー オープンイノベーションによる成功の秘訣

2023年8月3日(木) ハイブリッド開催 参加者:207名(うち、オンサイト35名)

「オープンイノベーションによる画期的新薬の創生を目指して」

バイオコミュニティ関西(BiocK) 副委員長

兼 統括コーディネーター 坂田 恒昭

「シン・一次産業:自然と共生し生命(いのち)の根幹を担うイノベーションへの挑戦」

ヤンマーホールディングス株式会社

技術本部 共創推進室 専任部長 鶴 英明

「シリコンバレーで見てきた脱炭素イノベーション ～欧米事例と日本の現在地～」

東北電力株式会社 事業創出部門 アドバイザー／

大阪大学フォーサイト株式会社 取締役／

インベストメントLab株式会社 シニアアドバイザー／IZM 代表 出馬 弘昭

「たった一人からはじめるイノベーション～ヘトヘトからワクワクへの仕組み創り～」

京都大学経営管理大学院 客員教授／

オムロン株式会社 イノベーション推進本部 シニアアドバイザー 竹林 一

【パネルディスカッション】

モデレーター:坂田 恒昭

パネリスト: 鶴英明 / 出馬弘昭 / 竹林一 / LINK-J 事務局長 高橋俊一

- ◆バイオ戦略トークセミナー 関西圏バイオクラスターの歴史と発展
2023年12月1日(金) ハイブリッド開催 参加者: 149名 (うち、オンサイト31名)
「我が国バイオ政策の展開」
経済産業省 商務サービスグループ生物化学産業課長 下田 裕和
「“関西バイオクラスタープロジェクト”による産業クラスターの形成」
経済産業省 近畿経済産業局 地域経済部
バイオ・医療機器技術振興課 課長 小谷 純二
「大阪商工会議所の健康医療分野の歩み
～大阪・関西における健康医療産業振興20年との連動～」
大阪商工会議所 理事・産業部長 榎山 愛湖
「バイオグリッドのこれまでとこれから」
青森大学 ソフトウェア情報学部 教授 下條 真司
「バイオコミュニティ関西 アップデート」
バイオコミュニティ関西(Biock) 事務局長 高田 清文
【パネルディスカッション】
モデレーター: 坂田 恒昭
パネリスト: 小谷純二 / 榎山愛湖 / 下條真司 / 高田清文

- ◆日英ヘルスケア・シンポジウム
2024年2月20日(火) 主催: 英国大使館、英国総領事館 申込者: 340名
「A cohort study of urban residents for lifelong health support: The Suita Study Family」
小久保 喜弘氏 (会場参加)
国立循環器病研究センター 健診部特任部長
グラスゴー大学 School of Cardiovascular & Metabolic Health 客員教授
「Medical Biobank System with Real-time and Real-world Clinical Information」
中村 祐輔氏 (会場参加)
国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 理事長
「UK Biobank: scale, depth, duration ... but, most importantly, accessibility」
サー・ロリー・コリンズ教授 (オンライン参加)
UK BioBank Principal Investigator兼CEO オックスフォード大学 Head of Nuffield
Department of Population Health
「Genomics England - evolving genomic healthcare and accelerating genomic research in
cancer and rare disease」
ジェームス・デウボフ博士 (オンライン参加)
Genomics England Strategic Partnerships Director
【パネルディスカッション】
モデレーター: 坂田 恒昭
パネリスト: サー・ロリー・コリンズ教授 / ジェームス・デウボフ博士 /
小久保 喜弘氏 / 中村 祐輔氏 / 小林 博幸氏 (塩野義製薬)

3) 国内外への情報発信

- ◆ホームページからの情報発信
BiocKホームページを活用し、BiocKの活動状況やバイオ関連イベント情報などを発信した。
- ◆口頭発表および投稿
外部のセミナー等からの依頼に応じ、BiocKの活動紹介を実施した。また、専門雑誌等への投稿も積極的に行った。

◆国際イベント企画

2025年大阪・関西万博の開催に合わせ、国際シンポジウムの開催を企画。名称を「Bioeconomy Hub Japan」とし、主催団体として、全国の認定バイオコミュニティの代表を委員とするBioeconomy Hub Japan組織委員会を2023年10月1日付で設立した。また、プログラムディレクターを坂田恒昭BiocK副委員長兼統括コーディネーターに、テクニカルディレクターを神戸大学 近藤昭彦先生、京都大学 小川順先生に依頼し、テーマを「プラネタリーヘルス」～バイオによるイノベーションがプラネタリーヘルスをどう実現するか～に決定した。海外からの招聘も含めてプログラムを策定中。

上記のプレイベントとして、Bioeconomy Hub Japan 2024(2024年4月19日(金)開催)を企画し、実施に向けて準備を行った。

(2) 産学個別マッチング

大学の技術シーズと企業のニーズとのマッチングを目的として、近畿圏の大学の産学連携部門とのネットワークを活用し、技術シーズの発掘を行うとともに、企業への紹介を行った。また、新しい技術を有する中小・ベンチャー企業を発掘し、ニーズを有する企業へのマッチングに繋げ、事業化を支援した。

2. バイオベンチャー支援事業

(1) 関西バイオビジネスマッチング2023

バイオ分野で事業展開している企業等を対象に、業務提携、販路開拓、アライアンス締結等の推進を目的として、商談会をオンラインにて開催した。

- ◆共催・協力団体を通して広報活動を強化
- ◆昨年に引き続きEventHubシステムを使用
- ◆10月2日募集開始、1月・2月商談実施
- ◆出展者向け説明会開催(12月11日、オンライン)
- ◆ピッチ開催(1月10日、オンライン)
- ◆マッチングサポート実施(33社からの依頼に対応)
- ◆実績

ブース数:121(企業:83、アカデミア:30、その他:8)

参加者数:225名(企業:155、アカデミア:54、その他:16)

ピッチ :49社登壇

商談数 :320件

(昨年度の実績:115(企業:95、アカデミア:16)、参加者数:224名、商談数:381件)

(2) 2023年度 ライフサイエンス海外ビジネス展開等支援事業(大阪府)

2019年度から継続して大阪府より本事業を受託している。有望な研究・技術シーズを有する府内ライフサイエンス関連産業中小・ベンチャー企業等のグローバルなビジネス展開を支援するため、海外企業等とのマッチング・アライアンスの促進を図ることを目的とし、本事業を実施した。

(2)-1 海外企業等とのマッチング・アライアンス促進、

海外ライフサイエンスクラスターとの連携促進

下記、海外のライフサイエンス関連展示会に参加し、府と連携して、海外のライフサイエンス関連企業と面談し、大阪のライフサイエンスにおける強みを発信し、日欧パートナーリング・カンファレンスへの参加を促した。

□ <米国> BIO International Convention 2023

2023年 6月 5日(月)～ 8日(木)(アメリカ ポストン)

28件の面談を実施した。面談では、日欧パートナーリング・カンファレンスへの勧誘に対し好意的な印象を持った企業が多かった。28社のうち3社から参加するとの回答を得た。

□ <欧州>BIO EUROPE 2023

2023年11月 6日(月)～ 8日(水)(ドイツ ミュンヘン)

2023年11月14日(火)～15日(水)(オンライン)

31件の面談を実施した。日欧パートナーリング・カンファレンス参加企業からのフィードバックでは、全体として、概ね好意的な意見が多かった。

(2)ー2 海外企業とのライフサイエンス分野のパートナーリング機会の提供

府及び国内外の関係機関と連携して、(1)の活動で関係を構築した欧州の企業・ライフサイエンス分野の海外クラスターなどと、大阪を中心とする国内企業とのマッチング・アライアンスの促進等を目的に、日欧パートナーリング・カンファレンスを企画・実施した。

オンライン開催とオンサイト開催の両方で実施し、個別のone to one meetingの他、オンライン開催ではクラスタープレゼンテーション、オンサイト開催では会場内でのポスター発表やLuncheon & Pitchを実施した。参加者数、商談件数等を以下に記載した。さらに、事後フォローとして、アンケート集計を行った。アンケートの集計結果によると、87%の参加者が、期待にそうマッチングができたとの回答であった。

「日欧バイオテック&ファーマ パートナーリングカンファレンス2023」の開催

実施内容

開催日 :オンライン:2023年 9月25日(月)～29日(金)

オンサイト:2023年10月10日(火) 9:00～16:00

開催場所:オンライン:商談専用システム(b2match)

オンサイト:ホテル阪急インターナショナル

開催内容:オンライン:開催期間内で参加者が自由に面談時間を設定

オンサイト:個別商談会(25分枠)

対象分野:創薬、創薬支援、再生医療、デジタルセラピューティクス(予防、診断、治療に用いられるデジタル技術)

参加実績:事業全体 計125社・団体(日45、欧:80)

大阪会場 :92社・団体(日:37企業、欧:55企業)

オンライン:63社・団体(日:23企業、欧:40企業)

* 昨年度:事業全体 計134社・団体(日50、欧:84)

大阪会場 :70社(日:37企業、欧:33企業)

オンライン:102社(日:33企業、欧:69企業)

商談件数:合計218件 大阪会場:136件、オンライン: 82件

* 昨年度 合計260件 大阪会場:100件/オンライン:160件

参加国数 :19か国

* 昨年度18か国

(2)ー3 産学官連携情報交流セミナーの企画・実施

府内ライフサイエンス関連の中小企業等のニーズを踏まえたビジネス支援のための情報交流セミナーを企画・実施した。実施にあたっては、中小・ベンチャー企業のニーズを把握するとともに「PMKイニシアティブ」と連携して企画検討業務を実施した。本セミナーは、すべてオンライン(zoom)での開催とし、近畿バイオでは、案内チラシの作成、それを用いての広報活動、HPでの参加受付、視聴者の管理、zoomウェビナーの講演リハーサル、セミナーで使用する資料の作成、セミナーの実施、アンケートの準備と集計等を行った。アンケート集計結果からは、いずれの回も満足度は高い、との回答が得られた。

◆第1回 産学官連携情報交流セミナー

2023年 7月19日(水) 参加者:62名 (オンラインのみ)

「除菌消臭剤のメカニズム解明から生まれた創薬ツール
～クライオ電子顕微鏡用グラフェングリッドの開発～」
大阪大学大学院 薬学研究科 教授 井上 豪
「COVID-19経口治療薬ゾコーバの創製とパンデミックへの備え」
塩野義製薬株式会社 研究本部 創薬疾患研究所長 佐藤剛章

◆第2回 産学官連携情報交流セミナー

2023年12月18日(月) 参加者:74名 (オンラインのみ)

「デジタル技術による持続可能な医療」

サスメド株式会社 代表取締役、医師・医学博士 上野太郎

「AI創薬の基礎としてのデータベースと多面的モデリング」

大阪大学 蛋白質研究所 教授/医薬基盤・健康・栄養研究所

AI健康・医薬研究センター センター長(兼任) 水口賢司

(2)ー4 海外展開サポートの企画・実施

府内ライフサイエンス関連の中小企業等の海外展開を促進するとともに、(2) 日欧パートナーリング・カンファレンスの参加者を増加させ、その効果をより向上させるため、海外展開にあたり障壁となりうる言語・文化・商習慣等の違いや、海外企業に対して魅力的なプレゼンテーションを行うために必要な知識や技術を習得することを目的としてセミナーを実施した。

◆第1回 海外展開サポートセミナー(ハイブリッド開催)

2023年 8月21日(月) 参加者:83名(うち、会場参加:25名)

「医薬品創出において日本人が海外に展開していくためには？」

イーライリリー株式会社 コーポレートビジネスディベロップメント

リリーベンチャーズジャパンアンドアジア シニアダイレクター 本田孝雄

「技術情報流出をめぐる現状と課題について」

大阪府警察本部 外事課 経済安全保障担当 石村徳彦

◆第2回 海外展開サポートセミナー(オンサイトのみ)

2023年 9月 7日(木) 参加者:24名(うち、プレゼン指導:3名)

ライフサイエンスプレゼンテーション力向上セミナー

「理系プレゼンテーション成功のカギ『要約力』を磨こう」

読売新聞大阪本社 社長直属「新聞のちから」委員会事務局 事務局長 戸田 博子

読売新聞大阪本社 社長直属「新聞のちから」委員会事務局 専任次長 霜田 聖

読売新聞大阪本社 科学医療部 主任 冬木 晶

(3) BioJapan2023出展支援

2023年10月11日(水)～13日(金)にパシフィコ横浜で開催されたBioJapan2023にて、一定区画のブースを確保し、近畿を中心に活動するバイオ関連の中小ベンチャー企業から出展を募り、14社の共同出展を実施した。

〈出展企業〉

RDサポート株式会社、H.U.セルズ株式会社、片山化学工業株式会社、株式会社カネカテクノロジーリサーチ、株式会社幹細胞&デバイス研究所、神戸天然物化学株式会社、学校法人佐藤学園OBMリサーチセンター、シーエスクリエ株式会社、Noster株式会社(一般社団法人日本マイクロナノバイオームコンソーシアム)、ホソカワミクロン株式会社、株式会社マイオリッジ、株式会社水田製作所、ミレックサスジャパン株式会社、株式会社理研ジェネシス

(4) バイオベンチャーデータベース

バイオインダストリー協会(JBA)と共同で「バイオベンチャーデータベース」を運用している。掲載数の拡大に向けた方策についてJBAと協議した結果、詳細情報は各企業のホームページ

で入手できることから、本データベースの必須入力項目を減らし、掲載数の拡大と検索機能の強化に注力することとした。

全掲載件数 2023年3月末現在:日本語サイト 227件、英語サイト 146件
2024年3月末現在:日本語サイト 251件、英語サイト 157件

3. 研究会

(1) 生活習慣病予防のための機能性食品開発に関する研究会

機能性食品の開発・商品化を通じて、高齢化社会における健康の維持、疾病・老化の予防、食産業の発展に貢献することを目的として2006年8月に設立した本研究会は、18年目を迎えて、延べ70回の研究会を開催した。今後も継続して機能性食品が「予防医学・代替医療」として有効に活かされていくよう、科学的根拠に基づいた機能性・有効性・安全性等を議論し、健康食品の信頼性を高めていく交流の場として継続実施した。

- ◆第1回研究会:2023年 6月13日(火) 参加者:12名(オンサイトのみ)
「京丹後長寿研究から見てきた健康 ―腸内細菌―食相関」
京都府立医科大学大学院 医学研究科 生体免疫栄養学講座 教授 内藤 裕二
「食物繊維による短鎖脂肪酸を介した代謝機能改善作用と機能性食品素材応用」
京都大学大学院 生命科学研究科 生体システム学分野 教授 木村 郁夫
トークセッション
- ◆第2回研究会:2023年 9月12日(火) 参加者:57名(公開・オンラインのみ)
「腸内細菌と認知症:食品から展望する認知症予防」
国立長寿医療研究センター もの忘れセンター 医長・副センター長 佐治 直樹
「エンテロタイプと機能性食品」
摂南大学 農学部応用生物学科動物機能科学研究室 教授 井上 亮
- ◆第3回研究会:2023年12月12日(火) 参加者:18名(オンラインのみ)
「TREM2に着目した糖尿病性認知症の新規認知症評価系の開発と
植物由来フラボノイド・タキシフォリンの展開医療」
国立病院機構京都医療センター 臨床研究センター
内分泌代謝高血圧研究部 部長 浅原 哲子
「健康な食と生殖能力の関係:マウスを用いて神経回路の観点から」
国立研究開発法人理化学研究所 生命機能科学研究センター
神戸ノ発生・再生研究棟新規 比較コネクティブ研究チーム 宮道 和成
- ◆第4回研究会:2024年 3月12日(火) 参加者:23名(オンラインのみ)
「骨格筋と腸のクロストークから考える食品機能」
京都府立大学大学院 生命環境科学研究科 栄養科学 准教授 青井 渉
「クロダイズポリフェノールの血管機能向上効果について」
神戸大学大学院 農学研究科 教授 芦田 均

また、神戸薬科大学と共催で、第3回「関西くすりと健康食品フォーラム」を開催した。今年度は、江崎グリコ株式会社 応用研究室 研究員 田中智子 様にご登壇いただいた。

(2) バイオの次世代を考える会

本会の目的を検討し、アカデミアのコアメンバーの選定を完了した。その後、アカデミアのコアメンバーの先生方と個別面談を行い、アカデミアの先生方が感じておられる産学官連携の課題をヒアリングし、その内容を基に会の内容を決定した。また、アカデミア・企業からのコアメンバー、若手メンバーの選定を進めた。現在は第1回の会の開催の実施準備、メンバーの追加選定を進

めている。

(3) 毛細血管ラボ・社会実装コンソーシアム

毛細血管画像を健康指標として確立すること、およびその社会実装を行うことを目的として、2021年8月にコンソーシアムを設立し、活動している。毛細血管画像は、生活習慣病などの特定の疾患や、老化、疲労、ストレスなどの健康状態、美容などと関連しており、新しい健康指標として確立することができれば、健康寿命の延伸に貢献できる可能性がある。

今年度は以下のオープンセミナーおよび会員限定セミナーを企画し、実施した。

◆2023年 7月11日(火) 会員総会・第1回研究会

ハイブリッド開催 参加者:28名(うち、オンサイト:16名)

会員総会

「血管内皮幹細胞を用いた毛細血管の再生」

大阪大学微生物病研究所 教授 高倉 伸幸

「コンソーシアムの今後の計画と分担案」

あっと株式会社 代表取締役 武野 團

「Tie2受容体活性化能を有する医薬品:

バビースモ(中外製薬)の申請概要等からデータ抜粋」(前)

NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 事務局長 国松 武史

◆2023年 8月24日(木) 第2回研究会

ハイブリッド開催 参加者:23名(うち、オンサイト:10名)

「機能性食品成分による生活習慣改善への毛細血管指標の活用」

東北大学 特任教授 駒井 三千夫

パネルディスカッション:あっと株式会社 藤井 千春(モデレーター)

大阪大学微生物病研究所 教授 高倉 伸幸

東北大学 特任教授 駒井 三千夫

「毛細血管指標と機能性表示食品」

あっと株式会社 代表取締役 武野 團

◆2023年12月 5日(火) 第3回研究会・オープンセミナー

ハイブリッド開催 参加者:26名(うち、オンサイト:21名)

「毛細血管の可視化と再生医療」

大阪大学微生物病研究所 教授 高倉 伸幸

「毛細血管顕微鏡を用いたウロリチンA含有素材(ウロリッチ®)による血管改善効果」

株式会社ダイセル ヘルスケアSBU 事業推進室 事業戦略グループ 卯川 裕一

「Tie2受容体活性化能を有する医薬品:

バビースモ(中外製薬)の申請概要等からデータ抜粋」(後)

NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 事務局長 国松 武史

◆2024年 2月14日(水) 第4回研究会(公開) 参加者:128名(オンラインのみ)

「毛細血管病である全身性強皮症」

大阪大学大学院 医学系研究科

血管作動温熱治療学共同研究講座/免疫内科 嶋 良仁

パネルディスカッション:あっと株式会社 藤井 千春(モデレーター)

大阪大学微生物病研究所 教授 高倉 伸幸

大阪大学大学院 嶋 良仁

「毛細血管論文と解析システム紹介」

あっと株式会社 代表取締役 武野 團

4. セミナー・講演会

(1) 関西ライフサイエンス・リーディングサイエンティストセミナー

ライフサイエンス分野で最先端の研究をリードしている関西の先生方にご講演いただくセミナーを公益財団法人都市活力研究所と共同でハイブリッド開催した。

モデレーター:大阪大学大学院医学研究科 教授 竹田 潔
大阪大学共創機構 特任教授 坂田 恒昭

◆第36回:2023年 7月 3日(月) 参加者:35名(オンサイトのみ)

「脳AI融合の臨床応用」

大阪大学 高等共創研究院 教授 柳澤 琢史

「T細胞の老化と再生」

京都大学iPS研究所 副所長・教授

京都大学 医学研究科 免疫生物学 教授 濱崎 洋子

◆第37回:2023年 9月 6日(水) 参加者:28名(オンサイトのみ)

「組換え蛋白質の超高効率生産を実現する鶏卵バイオリクター」

産業技術総合研究所 バイオメディカル研究部門 副研究部門長 大石 勲

「リンパ球動態を標的とした自己免疫疾患の新規治療法の開発に向けて」

大阪大学免疫学フロンティア研究センター 教授

大阪大学感染症総合研究教育拠点 教授 鈴木 一博

◆第38回:2023年12月13日(水)

ハイブリッド開催 参加者:47名(うち、オンサイト:16名)

「生命の試験管内再構成とその再発明への挑戦」

大阪大学大学院 工学研究科 教授 青木 航

「マルチオミクス解析による小児がんの病態理解と新規克服法の開発」

京都大学大学院 医学研究科 教授 滝田 順子

◆第39回:2024年 3月18日(月) 参加者:94名(オンラインのみ)

「がん抑制因子活性化創薬によるがん治療刷新を目指す」

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 所長 片桐 豊雅

「AI×量子×バイオの融合」

大阪大学産業科学研究所 教授 谷口 正輝

(2) 会場参加型トークセミナー

宮田満氏のコーディネートによる会場参加型トークセミナーを開催した。本年度は神戸学副学長 近藤 昭彦 氏をお招きし、講演とトークセッションをハイブリッドで行った。

◆2023年 7月21日(金) 参加者:108名(うち、オンサイト:19名)

「合成生物学の時代は来るか？」

株式会社宮田総研 代表取締役社長 宮田 満

「日本の合成生物学研究の現状と今後の課題」

神戸大学 副学長／大学院科学技術イノベーション研究科 教授 近藤 昭彦
フリートーク

5. 海外交流

(1) 新春トークセミナー・新春国際交流会

近畿バイオ会員のみ参加可能(オンサイトのみ)で新春トークセミナーを開催した。

◆2024年 1月25(木) 参加者:58名(オンサイトのみ)

「バイオテクノロジーの最新潮流2023/2024」

株式会社ヘルスケアイノベーション 代表取締役

／株式会社宮田総研 代表取締役 宮田 満

【海外機関ご紹介】

10団体

アイルランド政府産業開発庁／アメリカ ジョージア州／在大阪・神戸アメリカ
総領事館／アメリカ ノースカロライナ州経済開発機構／アメリカ ペンシルバニ
ア州地域振興・経済開発局／オーストラリア連邦・在大阪オーストラリア総領事
館／在大阪オランダ王国総領事館／カナダ ケベック州政府在日事務所／香
港貿易発展局／英国総領事館(動画)

6. その他

(1) 西宮市植物生産研究センター企画業務(西宮市より受託)

西宮市植物生産研究センターの企画業務を支援するとともに、同センターで開発された新し
い植物の商標登録出願に伴う会計事務等を行った。

(2) メールマガ配信

他団体のバイオ関連の各種イベント情報を、関係各位にメールマガジンとして配信した。

定期配信(2回/月)

臨時配信12回